

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4710610538		
法人名	医療法人 祐真会		
事業所名	グループホーム更竹		
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添1898番地の7		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.ioho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4710610538&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室		
訪問調査日	平成23年 1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.同病院内にホームがあり、状態が悪化した場合は、医師・看護師の迅速な対応が可能である。2.利用者の希望があれば、毎日入浴を行っている。3.同法人の誕生会・運動会・納涼祭等で他の利用者との交流が図れる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地を少し離れ、サトウキビ畑の広がる静かな環境に立地し、居室の窓から、木々の緑と海を眺める事ができ、利用者から「気持ち落ち着く」との声が聞かれる。同敷地内に母体法人の病院があり、利用者の健康管理と急変時の対応等医療連携が図られている。同法人は、複数の介護サービス事業を展開しており、法人全体で行われる納涼祭、運動会等が利用者同士の交流の機会となっている。法人全体の避難訓練に加え、今年度は事業所単独での避難訓練を実施している。また、台風被害の教訓を活かし窓を強化ガラスにしたり、今年度中にはスプリンクラーも設置予定となっており、安全面への対応が整いつつある状況にある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見やすい所に明示しており職員は常に理念を意識して働いています。	理念は、2年前に職員全体で作成し、「利用者が自分らしく暮らして行く事を支援する」内容となっている。理念は共用空間に掲示して職員間で共有し、利用者へのケアに活かしているが、事業所としての地域密着型サービスの意義と役割への理解が求められる。	利用者が地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支える地域密着型サービスの意義と役割を踏まえた理念作りに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から離れた場所にホームがありなかなか地域に出かけて地域の方々と交流がもてない。	法人主催の納涼祭や運動会等に地域の方や近くの保育園児たちが参加し、交流している。昨年度目標達成計画の中で、自治会や老人会との交流を掲げたが、立地条件もあり取り組まれておらず、日常的な交流もみられない。事業所から地域への啓蒙活動も行われていない。	地域活動への参加により、地域とのつながりをもちながら暮らして行くことを支援する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ取り組んでいない。地域の人々の暮らしに何か役立つ事を探していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、家族・地域の人からいろいろな意見をもらっています。	昨年度初回の運営推進会議を開催し、今年度は5回の開催と積極的に取り組んでいるが、参加者は、利用者家族、地域代表等で、市職員の参加はみられない。会議の内容は、行事案内と行事への出席確認のみで、外部評価後の報告や意見交換等もされていない。	利用者や市職員に会議への参加を働きかけ、事業所の活動を明示し、地域に開かれたサービスとして、透明性の確保とサービスの質の向上に繋げる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組む機会がまだ出ていない。	事業所は、法人窓口を通して事業所の現状報告や不穏状態の利用者が入所した際等の事例報告を市担当者へ行っている。市担当者と事業所は、直接的に関わる事が無く、市側からの情報も得られない等相互間の連携が取られていない状況にある。	市担当者に、事業所の実情や取り組みについて連絡を取る機会を増やし、相互間で情報を共有し、協力関係を築いていく取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事をすべての職員が正しく認識しており身体拘束のないケアを実践しています。	「生命に関わる緊急やむを得ない場合を除き身体拘束はしない」という事業所の方針に基づき、職員は身体拘束を行わないケアを実施している。外に出かけたい利用者がある場合には職員が同行している。リスクについては入所時に家族と話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に関する研修を受け、ミーティングなどで虐待が起きないように話し合っている。		

沖縄県(医療法人祐真会グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の事業所協議会が主催する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に本人、家族にホームを見学して頂きホームでの生活、医療連携体制や利用料金などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情、不満等は来訪時に直接職員に伝える事が多い。意見箱をホーム出入り口に設置しているが入った事がない。	家族の意見や要望は、来訪時や運営推進会議で聞くようにしている。例えば、ベッドの金属部分でケガをした利用者があり、家族から危険性を指摘されて、タオルを巻き対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がストレスをためないよう職員相互が気兼ねなく話し合うコミュニケーションの場を設けている。	管理者は、毎朝の申し送りの後や月1, 2回のミーティングを開催し、職員の意見や要望を聞いている。母体法人の応援看護師から「利用者の状況が的確に把握できていない」と指摘を受けた職員の提案で、各自が職員個別ノートを作成し利用者の情報や気付き等を記載することでサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に来られ職員の業務や悩みも把握している。職員が向上心を持って働ける労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は厳しく、病院内の医師等の協力を得て病院内研修を行い職員は全員参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者を情報交換を持ちサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に摂る中で意識的に本人が求めている事を引き出しながら関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は家族に会って家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ相談を受け信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の実情や要望をもとにその時点で何が本人にとってどのように暮らすのが最良なのかを見極めて利用開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら穏やかな生活ができる場を心がけている。昔の生活の知恵など自宅での暮らしぶりを聞き入れ教えて頂きながら家族を同じ思いで支援し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を見極めながら外出、外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり行事等に家族を誘ったりしながら良い関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの場、行事等本人も参加出来るよう家族と連携をとって、知人、友人の人達にも遊びに来て頂くよう声掛けしている。	法人内のデイサービスを利用する知人が利用者のもとを訪問する際は歓迎している。2年前まで知人や友人に利用者から年賀状を出す支援を行っていたが現在は途切れてしまっている。来年に向け再開予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションで一人一人が楽しく過ごす場を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方でも来てもらうよう連携したり相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は今日何をしたいのか意向をあまり言わないが、本人にとってどのように暮らすことが最良なのかを家族と検討している。	利用者が思いを表出できるよう語りかける時間を持ち、個々の思いの把握に努めている。意思疎通が困難な利用者へは、表情やしぐさ等から思いを把握するようにし、家族とも話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人や家族から聞き入れ本人を知る取り組みをしケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣等その人の全体把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議を行い、家族の意見・要望を聞き介護計画に意識的に取り組んでいて緊急案がある場合は随時会議を行っている。	職員は担当制とし、利用者や家族から要望を聞き、毎月のモニタリングを実施し利用者の状態の変化を把握している。利用者に必要な個別支援を介護計画としているが、介護計画がケアの実践に反映されておらず、目標の達成状況や評価等も行われていない。	個別の介護計画が日々のケアの実践に反映される仕組み作りと、目標の達成状況や評価を実施し、利用者の状態に応じた計画の変更や定期的な計画の見直しが行われることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録ファイルが用意されおり、日常の暮らしの様子や排泄状況、食事・水分チェック等、身体的状況を記録して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のデイサービスの交流、受診や入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合の入院の回避等支援しています。		

沖縄県(医療法人祐真会グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携がまだ取れとおらず、意見交換やボランティアへの協力の呼びかけが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域との連携がまだ取れとおらず、意見交換やボランティアへの協力の呼びかけが出来ていない。	かかりつけ医として同敷地内の母体法人病院を利用者全員が受診し、主に職員が対応しているが変化がない場合は薬処方の受け取りが多い。利用者の状態変化時や院外の眼科医院受診も職員が対応している。緊急時には当直医に電話で報告し往診の形態を取っている。受診後は家族へ電話報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームが病院に併設されていて急変時にはホーム担当看護師と情報交換を行い受診を受けている。また緊急時には何時でも対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	手術が必要な時以外は同法人の病院に入院し早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常のサインを早期に発見し重度化や入院を防いでいる。入所時に重度化した場合について利用者家族に考えを聞いている。	重度化や終末期は母体法人の病院に移送する事を母体法人と事業所が周知した方針を取り入れている。入所時に、家族へ重度化した場合の考えを聞いてはいるが、同意書作成や説明記録を残す迄には至っていない。	利用者家族に考えを聞くだけに留まらず、事業所としての方向性や方針の統一に向けて、母体法人と共に早期に話し合い、書類の整備と共に、家族や利用者の意向に対応できる体制づくりが臨まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には当直の医師、看護師がおり対応してもらっている。訓練は定期的に行っていないが年に何度か同法人の病院で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、非難訓練、消火訓練を年2回実施していて、全職員参加している。	11月に消防署と事業所単独での自主訓練を初めて行っている。火災時に、事業所内の防火扉が天井から共有空間の一部を囲むように降りてくる建築構造になっているが、職員は防火扉の作動方法や特殊となる誘導等の指導はされていない。台風時や災害時の食料の備蓄や、災害時の地域への協力要請はしていない。	特殊な建築構造の設備を活かした防火扉の作動方法や誘導等に関して、事業所内訓練を期待したい。夜間想定下訓練の実施や食料備蓄の確保も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に対して丁寧な言葉で接していて本人のプライバシーに関する話を話さない事を徹底し、記録等は事業所に保管している。	職員は利用者に合わせ、方言での語りかけや見守りをしながらその人らしさを尊重している。自己表出が困難な利用者には、立ち上がったたり、ソワソワしたしぐさを見逃さず思いの把握に努めている。排せつ失敗時にもさりげない誘導で羞恥心や不安を和らげる言葉かけを意識してケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒に過ごす時間を通して、希望、関心、好みを見極めて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日のしたい事を把握して入居者の生活に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、行事参加の着替えは職員と一緒に考えて化粧やおしゃれを手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは利用者と共にしているが、病院の栄養士が献立を立てて食材をもらい決められたメニューで食事を作っている。	母体法人から決められた食材が利用者分割り当てられ、職員が事業所内で調理している。職員は別棟の売店で購入した弁当を持参し、利用者と同じテーブルを囲んで摂っている。季節によって産直の果物や飲み物がメニューに載せられ提供されている。利用者は、食後の後片付け等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面場に職員が付き添い、食後の口腔ケアに取り組んでいます。洗面場まで無理な方は誘導し出来ない部分を手伝ったりしている。就寝前には入れ歯をポリデントで洗浄しています。		

沖縄県(医療法人祐真会グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を可能にする為に、日中は下着にパットを使用し時間を見計らって定時の誘導でトイレで排泄できるよう支援している。	自己表出困難な利用者が多く、日中は職員が定時のトイレ誘導を行い、個別には表情や行動で読み取りトイレへ誘導し自立支援をしている。日中及び夜間の排せつの失敗時には、状況に応じてシャワーを利用し清潔を保っている。夜勤者1人対応の為、夜間の排せつは記録で残している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション、散歩による適度な運動、食事前の軽体操により自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日で時間は決まっているが、本人の希望にあわせてくつろいだ入浴が出来るよう支援している。	毎朝11時のレクリエーションの時間に間に合う様に、利用者全員のシャワー浴が行われている。利用者全員が女性で同姓介助を基本としながら、了解が得られる利用者へは男性職員も対応している。「リハビリ温泉病院」の温泉が病院内に設置されており、事業所へは導入されていないが、有料にて利用は可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、散歩の活動で穏やかに安心して就寝できるように、また利用者には原因を見極めて医師と相談し薬剤を処方するなどして安眠支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに整理し、職員は利用者個々の薬の目的を知っていて正しく服用出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や食器拭き、洗濯干し・たたみ、気分転換にデイサービスの利用者と遊んだりドライブに出かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴を兼ねた散歩、ドライブなどに出かけスーパーでの買い物等で楽しみの場を作っている。	ハーリー祭見学や前浜ビーチ等へのドライブ、スーパーでの買い物等に全員乗車で外出支援をしている。また家族と連携をとり、命日やお盆の行事に迎えに来てもらう等個別に希望を叶える支援もしている。敷地内の散歩で気分転換を図り、涼しい場所で座談会をしながら自然と触れ合う機会も持っている。	

沖縄県(医療法人祐真会グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はしないようにしている。必要な時にその都度預かっていて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙、電話を歓迎していて利用者も自由に使えるように促して気兼ねなく使えるよう席を外すなど配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間はバリアフリーでくつろぎの場である。家具の配置、飾り物や利用者の作った作品を壁に展示して居心地の良い空間作りをしている。	1階正面玄関に正月用生け花を飾り季節感を演出している。共用空間は暖房で暖かく中央に配置されたソファでテレビや音楽を聞きながら利用者は寛いでいる。壁には、職員と利用者で大作の塗り絵を完成させて貼り、共用空間を面会用のソファや造花、飾り物等で工夫し家庭的な雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で少し離れて安心して一人や数人で過ごせるソファのコーナーの場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に連絡を取って少しづつではあるが、馴染みの物などを持ち込んでいて落ち着いた居心地良く過ごせるように工夫している。	居室にはベッドと低めのタンスが備えられ、利用者は家具を持ち込んだり、家族の写真を飾る等思い々の部屋作りをしている。居室によっては、空調機の故障で室温が保たれず、また、既存の防火カーテンを1枚のみ使用の為に日中のプライバシーが確保されていない。	利用者は高齢の為、熱代謝の機能も衰えつつあるので建築物の室温管理は状態の変化にも影響を及ぼすことを考慮して取り組んでほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダや屋外等で園芸(水撒き)をしたり洗濯物干しや日向ぼっこを楽しめる場の環境を作っている。		